



# 東田

ひがした

令和元年8月27日 NO.518

杉並区立東田小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/higashitashou/>

## 変化の時代

校長 森田 康之

「夏休みと言えば？」と聞かれて、みなさんは何と答えるでしょうか。宿題・旅行・プール・花火……。

わたしは、高校野球です。小学生のころ住んでいた近所に、現在読売巨人軍の監督として活躍されている原監督が在籍されていた高校があり、練習を観に行ったり、サインをもらったりしたのがきっかけです。また、中学校の同級生たちが、高校野球の複数の名門校に進学したこともあり、小中高と、高校野球を見続けていました。

大学生になると、選手が年下になり、それまでと違った刺激を受けたこともありました。社会人になって、いつの間にか監督と同世代になり、選手の気持ちより、監督の考え方に共感したり、指導法を学んだりするようになりました。最近では、地方大会も観に行くようになり、これまでとは違った観方でも楽しんでいます。

今年の全国高校野球選手権大会は、101回大会。ともに初優勝を目指す星稜高校(石川)と履正社(大阪)で決勝が行われ、履正社高校の優勝で幕を閉じました。そんな、100年以上続いている高校野球ですが、ここ数年、大きく変わってきています。

今年は、初めて決勝の前日が休養日となりました。

投手の球数制限については、ここ数年、毎年話題になっています。特に今年は、岩手県大会決勝で敗れた大船渡高校のエース起用法が、いまでも物議を醸しています。

わたしは、批判覚悟で起用を見送った「監督の英断」へ拍手を送りたいくらいです。そもそも、連投問題は、毎年毎年話題になり、問題視されてきました。過密な大会日程に対して、もっとも議論されるべきなのに、先送りされてきています。

「大人の事情」よりも「子供の実情」を優先してほしいです。何と言っても、**主人公は、選手であり子供たち**なのですから。

延長戦のタイブレークを導入しただけでは足りません。もはや

「ケガを覚悟で連投しろ」というのは、時代に合っていないのではないのでしょうか。

プロとアマチュアを比較すること自体、間違っているといわれるかもしれませんが、プロ野球のルールをとってみても、ここ数年で、急激に変わりました。

ホーム上でのケガを防ぐために捕手がベースをブロックしない「コリジョンルール」。投手が四球を投げずにバッターを歩かせて、試合進行を早める「申告敬遠」。審判の判定に異議を唱えて、映像によるリプレー検証ができる「リクエスト」。

野球ばかりではありません。バレーボールは、サーブ権制でしたし、リベロというポジションはありませんでした。来月ワールドカップが開催されるラグビーは、トライの得点が変わりました。

いずれも当初は、賛否両論ありましたが、今となっては、すっかり定着してきました。

というように、現代は、**確実にその時代に適したように、変化する時代**になってきています。

夏休み中も、地域の皆様、PTAの皆様には、今年もプール・ラジオ体操・お祭等で大変お世話になりました。

今学期は、運動会があります。児童の安全を一番に考えた運動会にして参ります。また、校内の工事の関係もあり、これまで2学期に行われていた東田フェスタも、3学期の展覧会と変わりました。

本校では、その時代に適した行事を計画的に準備し、進めて参りますので、今学期もお子さんの体調管理をどうぞよろしく願います。

## 8月・9月生活目標

## おちついてしっかり生活しよう

長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。しっかりと学校生活のリズムを取り戻し、毎日を元気に過ごしましょう。

今月は下旬の運動会に向けて練習が始まります。学習に行事に充実した日々にするためにも、基本的な約束を確かめ、落ち着いた生活を送ることが大切です。学校では以下の五つのことを重点的に指導していきます。ご家庭でも、元気に過ごせるようご配慮をお願いします。

- ・人の話をよく聞こう。
- ・忘れ物をしないようにしましょう。
- ・学習の準備をしよう。
- ・あいさつをきちんとしよう。
- ・自分の考えをすすんで発表しよう。

